東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成 30 年 11 月 29 日(木)午前9時 57 分～午前 10 時 41 分(9階 908 会議室)

○出席委員(11 名)

委 員 長	高木　克尚	副委員長	尾形　　武
委　　員	沢井　和宏	委　　員	二階堂　武文
委　　員	鈴木　正実	委　　員	根本　雅昭
委　　員	小松　良行	委　　員	村山　国子
委　　員	小野　京子	委　　員	山岸　　清
委　　員	渡辺　敏彦		

○欠席委員(なし)

○議題

1　意見交換会について
2　委員長報告について
3　その他

午前９時57分　　開　　議

(高木克尚委員長) おはようございます。ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会をいたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりでございます。

まず、意見交換会についてを議題といたします。

11月16日に行いました前回の委員会でご協議をいただきました福島成蹊学園と福島市への共催依頼について、正副委員長から議長へ共催の依頼をしていただくよう申し入れを行わせていただきました。そこで、本日は福島成蹊学園へ正式に依頼できるよう、お配りしております実施要領の内容を決定したいと思います。

まず、前回お示しした内容と変更点についてご説明をさせていただきます。まず、５番の目的、テーマについて決定をさせていただきました。ただし、今後成蹊高校との協議によっては変更の可能性もあり得ることはご承知いただきたいと存じます。お配りした要領の網かけの部分、想定される意見交換会の内容についてでありますが、皆さんからご意見を賜ったように、第１部、第２部それぞれ、2020年までにしなければならないこと、第２部は2020年以降福島の未来について時系列で意見交換をしていただくと、こういうまとめをさせていただきました。網かけのところは、ご一読いただければ

ご理解いただけると思っております。

それから、２ページに行っていただいて、10番の傍聴者、記者への資料配付でありますが、前回まで参加者、記者への資料配付としておりましたけれども、参加者へは意見交換に必要な資料の配付は当然必要なため、傍聴者と記者への資料配付に変更し、加えて内容を明記させていただきました。

以上が前回皆様のご意見をいただいて取りまとめをさせていただいた変更点でございますが、ご意見があればお述べいただきたいと思います。

（村山国子委員） ５番の第１部の２行目のところで私たちができることというのはいいと思うのですが、しなければならないことというと子供たちに強過ぎるのかな、やっぱりできることは何かというふうに問いかけたほうがいいのかなというふうに思いました。

（高木克尚委員長） 今村山委員から私たちができることという大きな表現で、何かしなければという義務的な表記は避けたほうがいいのではないかと、こういう意見をいただきましたが。

（小松良行委員） 村山委員と同じで、子供たちからすると、どういった支援を受けたかというふうなところで、感謝に応えるということになってくると、やっぱり非常に子供にとっては重い課題になってしまうので、ここら辺は私たちができること、伝えるはいいですけれども、できることでいいのだろうと思うし、むしろできることは復興オリパラということで私たちがどんなことできるかなということで、余り東日本大震災で受けた支援に対してというような部分での学生、子供たちからの声を大きく拾い上げるというよりは、やんわりここは一応趣旨としてというか、目的としてこういったことで誘致がなされたのだよという部分でいいのではないのかなと。ほぼ村山委員と同じような考え方です。

（高木克尚委員長） ほかにご意見は。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（高木克尚委員長） では、この第１部のゴシックのところももう少しやわらかくしたほうがいいということになりますよね。では、タイトルのゴシックのところ、2020年までにしなければならないこと、括弧書きを2020年までにできることという表記でいかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（高木克尚委員長） それから、文章中、しなければならないことを削除。この２カ所の変更でいいですか。

（根本雅昭委員） 2020年までにできることだとちょっとやわらか過ぎるような気がするのですけれども、2020年に向けてですとか、そのほうが、タイトルなので、文面と違って何かいいような気がするのですけれども、までにできることというタイトル、ちょっとひっかかります。

（高木克尚委員長） 2020年に向けてできること。

（根本雅昭委員） はい。

（山岸　清委員） 今の点は私も同感なのですが、全般的に申し上げていいですか。この資料配付あり

ますよね。傍聴者、記者の人は当日でもいいのだけれども、40名の事前の児童生徒さんにはあらかじめ前に渡しておくのでしょう。そうでないと、はい、言ってくださいと言われたって。

（高木克尚委員長）そのつもりでおります。

（鈴木正実委員）2020年までにできること、あるいは向けてできることという表現ですけれども、これはやっぱり私たちという言葉が入ったほうがより子供たちの身近な表現になるのではないかなという気がすごくするのですけれども。2020年までに私たちができることという、文中にある言葉をそのままここは使ったほうがベターなのではないかなと思うのですけれども。

（高木克尚委員長）2020年に向けて私たちができること。

（鈴木正実委員）はい。

（高木克尚委員長）非常に高校生には理解しやすい表現になったかと思います。

ほかにご意見ございませんか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（高木克尚委員長）先ほども述べたように、あすお邪魔することになっておりますので、万が一変更等は生じることはご承知おきいただきたいと思います。

第２部のほうはよろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

（高木克尚委員長）では、実施要領についてはそのようにさせていただきます。

なお、実施要領が決定いたしましたので、正式に議長へ意見交換会の承認要求書を提出し、承認をいただく予定でありますので、あす正副委員長で福島成蹊高校を訪問して、校長先生に共催の依頼を行ってまいりたいと思っております。

次に、参加者の募集に向けたポスター案を作成いたしましたので、お配りをいたします。

【資料配付】

（高木克尚委員長）ただいまお配りいたしましたチラシについては、参加者の募集のために成蹊学園でお配りをしていただくために作成したものであって、これＡ４判ですが、同じものを大きく印刷して、ポスターとして成蹊学園内に掲示してもらうなどの活用も検討しております。このようなチラシ、ポスターを作成したいと思いますが、ご意見をお述べください。

（山岸　清委員）これは市役所とか支所にも張るようになりますか。

（高木克尚委員長）これは今回の意見交換会の根幹にかかわることでございますので、そういう質問はちょっとどきっとするのですけれども。

（山岸　清委員）成蹊高校にだけやるという。

（高木克尚委員長）学園側からするとさまざまな、このチラシにしても活用はどんなかかわり方するかわかりませんが、保護者対策が非常に学校側とすれば一番重要な場面となるそうでございます。ですから、正式にこういうものが行われるよということを掲示したいというのが学園側の意向でござい

ますので、子供たちに口頭でお知らせという通常の学校行事の案内とは別に行っていただきたいと、こういう考え方でございます。

（沢井和宏委員）これわざとなのか、タイトルの福島市議会が白抜きで余り強調されないようにわざとなっているのかな。ぱっと見たときにこれは何のポスターかなというのが。

（山岸　清委員）あと、このポスターの図柄、このお姉ちゃん一生懸命騒いでいる格好はいい、これは岩登りのあれなのだけれども、やっぱり野球とソフトやるのだから。これぱっと見たとき、岩登りの競技だから、これ。ちょっと野球の……

（高木克尚委員長）自分でポスターを作成した経験のある方はご承知かと思いますが、こういった写真掲載は自由度が限られておりますので、福島市が用意をした利用可能な写真の中から選択をさせていただきましたので、そこはご理解いただきたいと存じます。

（山岸　清委員）野球の写真はなかったの。

（高木克尚委員長）ありません。

（小松良行委員）ソフトは、この間ソフト大会やったのでしょう。

（高木克尚委員長）この写真は、許可を必要としない写真でございます。それ以外の写真で許可をとって作成せよと言われるのであれば検討させていただきたいと思いますが、現時点では非常にソフトで優しいイメージの写真を掲載したつもりでございます。

（渡辺敏彦委員）野球、ソフトにこだわっているわけでないから。オリンピックにこだわっているのだから。

（高木克尚委員長）ご意見ございませんか。

（書記）事務局で１点補足させていただきます。

こちら今お配りしたものの右下に公認プログラムというマーク記載させていただいていると思いますが、こちらはこれから申請予定ということで、正式に公認プログラムになればこのマークが使えるということで、今予定で入れておりますが、まだ正式にこの許可とっておりませんので、申しわけありませんが、これは外に出さないようにお願いいたします。

あわせまして、この公認プログラムをとりますと、今ほど議論のありました写真等につきましてもさまざま、いろいろスポンサー等々の関係という制約がございますので、何の写真でも載せられるわけではないというところも影響してきます。ということで、その辺もご了承いただければと思います。

私のほうからは以上です。

（鈴木正実委員）確かに今の説明は十分わかりましたが、一度どういう写真があって、ソフト、野球に関連がある写真があるのかどうか、これで使えるものとしてそこは一回検索するなりなんなりしていただいたらいかがかということと、あとこのタイトル、さっき沢井委員のほうからもありましたが、見づらいと同時に字体がここだけ明朝体の余りぱっとしない字体なので、何か字体の工夫、あとは縦書きでいいのか、その辺も含めてもう一度再考いただければいいかなというふうに思います。

（二階堂武文委員）私的には、こういったビジュアルのものって言いようによってはいかようにも言えますし、私個人的にはお任せして、統一感のある形で若い人に共感していただけるようなデザインであれば、あとはお任せでというところ。

（根本雅昭委員）なかなか言いにくくなってしまいましたけれども、今鈴木委員話したように、右上のこのタイトル、合わせてゴシックのほうがいいのかなというのと、あと主催、共催、ここスポーツには世界と未来を変える力があると同じ形だとより見やすくなるかなと個人的には思いました。この主催、共催の書体と色、ゴシックの青、真ん中のスポーツには、これと同じような形だと統一感あっていいかなと。ちょっとやってみないとわからないですけれども。ここだけ明朝というのが気になりました。

（村山国子委員）写真に関してはすごくいいなと思って見たので、福島で野球、ソフトやるから、それを載せなくてはいけないという、そういうのではないのかなと、全体を見れば、やっぱり二階堂さんも言ったように高校生が共感してもらえるような、そういう方向のほうがいいのかなというふうに思いました。

（二階堂武文委員）あくまで私どもこれ今見ているのはプリンター出力のものなので、実際の印刷物ですと写真はもっとクリアに出てくるでしょうし、文字を白抜きにしたりなんかしているというところもそういった面では実際の印刷とか何かというレベルになってくると相当クリアに、ちょっと上品な形で仕上がってくるものなのかなというふうに意識しておりますので、余り議会、議会という自己主張を強くしないほうが逆にソフトな印象で、押さえるところはきちっと福島市議会で押さえておきながら、あとは議会の自己主張はちょっと抑え目にトーンダウンして、あとは学生の皆さんとか何かに余りかた苦しく受けとめられないようなところでイメージ的なつくりはよろしいものかなと、こういった形で、そのようにちょっと私は思いました。

（高木克尚委員長）それでは、微調整は正副委員長にまたお任せいただいてよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（高木克尚委員長）成蹊高校にこれ持っていって、いや、これはと言われる可能性だってないことはないですけれども、これを基本として調整を図りながら成蹊学園とも協議をさせていただきたいと思います。

次に、委員長報告についてを議題とさせていただきます。

半年も前の視察の件でございますが、行政視察をした中で七尾市について、スポーツ合宿の誘致に積極的に取り組み、温泉旅館への宿泊者の増加など一定の経済効果を上げているという視察でございました。本市でも市長がスポーツ合宿の誘致に取り組むと名言をしておりますが、七尾市の取り組みから、スポーツ合宿誘致の取り組みに向けた提言をする場合、どのような視点で提言するのか、きょうは皆さんとご協議をさせていただきたいと思います。

実は視察後、５月９日、本当に半年前ですが、皆さんから視察についての意見開陳をしていただい

た経緯がございます。そのときのポイントとして、まず視察内容については、株式会社石川スポーツキャンプという会社が全国からサッカーの強豪校を呼び込んで、誘致に関してその力が非常に大きく働いているという視察の内容の中でのポイントがございました。

２つ目のポイントとして、ただし課題は客単価の向上だと、高校生などの合宿では低い客単価で宿泊しており、ついでの観光や利益率の高いビールなどの消費もないと、こういう切実な現地での考えもお聞きしてまいりました。これが視察振り返りの際の５月９日での視察内容の重要なポイントの２点に挙げられました。

意見開陳の中でのポイントとして６点ほどあります。皆様からいただいた中で、十六沼は既に市民利用だけで多く活用されて、合宿優先よりは市民を優先させるべきなのではないかというご意見がありました。

２つ目には、連携中枢都市圏の動きの中でスポーツを組み込むことが必要になってくるのではないか。

３点目として、競技などターゲットを絞る必要があるのではないか。七尾市では、テニスコートが非常に活用されているという点もございましたし、テニス愛好家が年齢幅広く、高齢者の皆さんも含めて経済的優先効果も考えると、ターゲットを絞る必要があるのではないかという意見開陳もございました。

４つ目に、オリンピックを開催した都市というネームバリューをどう生かしていくのかと。今後合宿誘致を啓発する際にオリンピック開催都市という考えをどう生かすのかということです。

５点目には、スポーツによる健康づくりということにつながればなお誘致効果につながるのではないか。

６点目として、本市にあるさまざまな施設をどう活用していくのかが大事なことではないかと。

以上大きく６点のポイントが意見開陳として挙げられておりました。これが５月９日での振り返りの際の記録でございます。

私から口頭で言ったので、非常にわかりづらいかもしれませんが、それ以外に何かお気づきの点、ご記憶にある点、例えばボランティアのこととか、パラリンピックのこととか、文化合宿どうなのだとか、いろんな意見がありましたけれども、その辺もこの提言をまとめる際にポイントとして組み込むべきでないかというお考えがあればお述べいただきたいと思います。

（小松良行委員）見に行ったときに和倉温泉運動公園の指定管理は和倉温泉の旅館組合がやっていて、合宿の申し込みやグラウンドの手配、それから宿泊、弁当の手配など、マッチメーキングを一手にやっていると、そこに連絡すればワンストップで完結する仕組みづくりがあったかというふうに思っています。余り多くのスタッフはいなかったように記憶するのですが、二、三人くらいでやっていたような感じのところだったのですが、こういったマッチメーキングといいますか、宿は宿でお願いする、会場は会場で押さえなければならぬとかということでなくて、こういうことだったら意外と観光協会

などに協力してもらって福島でも可能ではないのかなというふうに思った点が１つと、それからスポーツ合宿に特化した、例えば今から会場というか、合宿するためのスポーツ施設をつくっていくなんていうことは不可能なのですけれども、今ある施設、あるいはこれから天然芝サッカー場なども整備されていくのでしょうけれども、こういったものがありますよ、こういった温泉宿泊地がありますよとかといった福島市のスポーツ施設のガイドブックというか、パンフ、こういったものを作成して、全国の教育委員会というか、あるいは主に高校生とか大学生の誘致なのでしょうから、そうした学校にお届けしていくなどして、オリンピック後にここで行われたのだという会場だったことのメリットを生かした誘客が図れるのではないのかなというふうに思ったりしましたし、先ほど宿泊代が7,000円くらいとかで、お酒も飲まないから、余り旅館の売り上げにはならないとはいうものの、意外と福島に、修学旅行で岳温泉のほうに宿泊したとかいうことをいまだにやっぱり思い出深く語る若者がいたりなんかしたのですけれども、意外や意外こういったところでの青春の一こまでも将来にわたってあそこで取り組んだ合宿の思い出とかというのがあるとすれば、何年先になるかわからないですけれども、リピーターとして福島を観光に訪れてくれるなんていうことも期待もすれば、多少安くても、むしろ逆に七尾市のような、和倉運動公園のようなすばらしい施設はないけれども、期間を限って誘客のために宿泊補助、大体高校生とか大学生お金ないですから、7,000円ぐらいかかるのだなということであれば、朝昼晩御飯食べなければならないので、食事代の1,000円ぐらい補助するとか、ある程度のそうした積極的な誘客に努めるというのもこの機会に考えてみたらどうかなというふうに思ったところでした。

以上です。

（村山国子委員） 十六沼ってすごく人気で、今本当にとるのが大変なぐらいなのです。なので、本当に今の状態でもスポーツ合宿が誘致されているという、そういう状況になっているのではないかなというふうに思うのです。来れば結構秋田とかあっち、東北だったらば青森とかも来ているし、飯坂温泉が近いので、そこに泊まるというふうに大体はなっているので、すごく経済波及効果大きいなというふうに思っているのと、あと大森にあるパークゴルフ場、あれが高齢者にとっては意外と集まっているのです。だから、今ある施設を使ってというふうに言われましたけれども、そういうところに目を当てれば、本当にパークゴルフなんて、やらない人には関係ないですけれども、やる人にとっては福島いいねというふうに今なっているところがあるので、そういうのの活用なんていうのもできるのかなというふうに、高齢者のスポーツとも限らないですけれども、そういうところもあるのかなというふうに思いました。七尾市の場合は、やっぱり観光がメインなのです。スポーツ振興といえばやっぱり市民を中心にというのが一番の私的には願いというのがあります。

以上です。

（高木克尚委員長） 正副委員長でも非常にいまだに悩みなのですが、意見開陳の最初に言ったように、合宿優先と市民優先の折り合いのつけ方というのはどう提言していったらいいのか、非常に苦慮する

課題なのです。そこは避けて通るか、触れるか。

（鈴木正実委員）市民優先という考え方あるいはその地域の経済効果優先という考え方もこれありなのだと思うのですけれども、やはり温泉旅館の人たちも市民の一人で、ここへ来たことがこっちの市民の豊かさにつながっていくのだとか、そういう視点からいけば全市でのメリットがあるというところが捉えどころで、市民だけだから、スポーツやる人だけだからという限定ではないのではないかと思うのです。ですから、全体としてスポーツが来ることによって市全体が潤ったりするのだという、そこのところも含めながらスポーツ合宿という考え方を持っていくべきだろうと。

あともう一つは、せんだって実は相馬行ってきたのですけれども、光陽のスポーツ施設見てきました。サッカー場が人工芝含めて全部で６面あったり、ソフトボール場は４面あったり、あとはパークゴルフがある。人がいるのかと思うと、平日だったので、日中いないわけです。そうすると、そういう施設も複合的に考えながら、それこそまさに連携中枢都市圏の中での相馬まで含めたスポーツ合宿をみんなで提唱していく、そういう考え方もあるのではないか。ただ市内の施設だけにこだわって、それを使っていきましょうではなくて、近隣市町村全部巻き込んだスポーツ施設をうまく使っていきましょうという仕組みを福島市が中心になって考えるべきことではないのかなというふうに思うのですが。

（高木克尚委員長）まさに相馬の立谷市長の考えはそこなのです。ないものをつくろうといったって無理なのだから、お互いにあるものを有効活用しませんかというのが相馬の立谷市長の考え方なのです。申しわけないけれども、相馬には温泉ないのだ、必ず言われますから。

（村山国子委員）私が言ったのは、市民優先と言いながら、別に市外の人を排除するという意味ではないのです。今十六沼は既にスポーツ誘致の、そういう形になっているよという意味なのです。だから、それ以上七尾市のように交流人口を優先とした、スポーツ合宿を優先とした、そういうふうなやり方ではなくてもいいのではないのと、そういう意味です。

（高木克尚委員長）これは、先ほど意見開陳の２つ目に述べたように、連携中枢都市圏の動きの中でスポーツの施設も含めた組み合わせをどうしていくのかという意見開陳は皆さんから５月９日に出ておりますので、この辺は今申し上げました悩みどころの合宿優先、市民優先と絡めないと解決していかないのかな、こんな思いはしておりますけれども。

（沢井和宏委員）もう一つ、やはり県の施設も巻き込んでという、県を巻き込んでという考え方も必要なのかななんていう。あづま運動公園、やっぱり福島に立地しているところでかなり使い勝手はいいような気がするのですけれども、あそこには宿泊施設、中にも多分あるのですよね。

（高木克尚委員長）これは、大変申しわけないのだけれども、申し込みの便利さからいったら絶対平行線です、県の施設は。よっぽど何か動きがないと、県の施設一遍に検索して申し込みができるというシステムは、管理機構が合体すれば別ですが。

（鈴木正実委員）あと、先ほどいろんな勉強しながらということで、例えば先ほど来ある十六沼とい

うのもあいている日が必ずあるのです。日中、特に平日の日中はあいていますから、こういうところをうまく使いながら仕組みに取り込んでいく。そのときに一元管理ができるような仕組みというのですか、スポーツ振興の体育館でやるようなだけではなくて、もっともっと地域的に、それこそうちの根本委員が好きなＩＣＴを活用した地域のスポーツ施設を一体管理できるような仕組みをつくる、その中での合宿割り当てみたいな形ができるような仕組みも構築していくべきだろうというふうに思うのですけれども。

（高木克尚委員長）あくまでも日帰り合宿のみではなくて、きちんと数日間福島市で合宿が可能な案内システムが欲しいということですよね。

（根本雅昭委員）今旅行会社のサイトなんかでも宿泊予約から、レンタカーから、飛行機から全てワンストップで、条件を入れれば自動的に全て予約してくれるような仕組みになっていますので、そういうポータルサイトか何かを市でもつくって、いろいろな機関と協力しながら、いろいろな条件を、合宿を希望されている方が入れることによって全て食事から何から何まで自動で予約できるような、それこそ連携中枢都市圏でほかの市町村なんかも巻き込みながらやっていったらいいシステムができ上がるのではないかなというふうに思います。その中で例えばＡＩなんか組み込んで、鈴木さんおっしゃったようにすき間のところをちょっと料金下げるとか、優先的に案内するとか、そういう穴埋めをして年中使われているような状態の仕組みづくりというのはできるのではないかなというふうに思いました。

（山岸　清委員）スポーツ合宿も目的はいいのだけれども、現実に考えると夏休みでしょう、大学も高校も合宿するのは。福島暑いのだよね。みんな知っているわけだから。そうすると、長野の菅平はラグビーだかサッカーで有名になって、やっぱりあそこは平均気温低いのだよね。だから、夏ぶつかってやってもそんなにけがしないのだけれども、やっぱり暑いところでけがすると傷口もうむのだよね。だから、どうしてもラグビー、サッカーは冬場は熱心なのだよ、合宿。そうすると、福島で暑いところでやってくれるか。目的はいいのだけれども、私はどっちかというと市民が一生懸命スポーツやってもらえばいいかなと思っているのね。

あともう一つ、自分らの経験でいえば、高校のとき私も剣道部だったけれども、合宿は学校なのだ。そして、布団敷いて、そして１週間くらいやっていたけれども、これも暑くて容易でなかった。そして、今度夜学に行ったら、今度は山岳部なのだ。だから、松本、日本アルプス、あっちも行ったけれども、山岳部なんて米背負って、寝袋持っていくのだから、どこにも泊まらないよ。駅前の食堂の前で飯つくって食っているのだから。そして、山登りなんてやっているから。これは夏行ってきたけれども。だから、なかなか福島で合宿をやる、あともう一つは飯坂、高湯、土湯、それぞれ旅館でしょう。そうすると、やっぱり客単価については相当こだわると思うのだ。福島でいえば、いろんな高校の大会になると、私のほうの森合のやまとなんていうのは、朝行くといつも高校生図書館の駐車場で気合いかけやっているのだよ。そして、泊まっているのだね。だから、市内のちょっとした旅館はそ

ういうところで結構福島のいろんなスポーツ大会やると潤っているよ。だから、余り、スポーツ合宿来てくれればいいけれども、ほどほどにしたほうがいいのではない。委員長も悩んでいるようだから、ちょっと。

（高木克尚委員長）ただいま山岸委員から提言しなくてもいいのではないかという意見がありましたけれども、そのほかございませんか。

（小松良行委員）開催後になってきますけれども、たしかあそこでプロテニスプレーヤーとか来てイベントを開催していたような記憶あったのですけれども、ぜひやっぱり福島での開催を将来的にわたってもここでやったのだよという、これがレガシーになっていくのだと思うのですが、ソフトあるいは野球競技団体が中心になってといいますか、そうしたスポーツイベントというものをやはり定期的に開催していって、この開催地である福島ということを常に発信し続けていくということも大事になってくるのかなというような感じもいたしました。

以上です。

（高木克尚委員長）山岸委員の意見の一部は、連携中枢都市圏を含めて広域で誘致を考えたときに幾分かは解決しそうな課題ではあるとは思うのですけれども。

（山岸　清委員）委員長も言ったけれども、立谷さん、ゲートボール福島ではつくらないでくれと、私のほうででっかくつくっていくから、飯坂、土湯とか、そういうところに泊まるように図ってくれなんて一生懸命力説していた。福島ではゲートボールつくるななんて言って。

【「パークゴルフ」と呼ぶ者あり】

（山岸　清委員）パーク。

（小野京子委員）大体皆さんの意見と私も同じなのですけれども、やっぱりそういうさっき山岸さん言った小さい旅館とかそういうところが潤っているという、そういう泊まるところとか施設とか、情報を流すということもいろいろ方法、根本委員からもあったので、そういうものを出すということは市民も合宿にとっても大事なことだと思うので、情報を提供するということはすごく大事だと感じました。

以上です。

（高木克尚委員長）では、提言を目指す上でまとめをさせていただきますが、記載の５月９日の意見開陳以外に本日皆さんからご意見をいただきました重要な点、例えばポータルサイトも含めて合宿誘致の窓口の一本化という、利便性を高めたほうがいいだろうと、それからどういう福島市ならではの合宿が可能ですよというガイドブックも含めて、情報発信には十分力を入れていただきたい、それからせっかく福島で合宿したら、合宿以外にも将来リピーターとして訪れていただけるような思い出づくりも含めたサービス提供、こういうのも必要なのではないか、来ていただいたらやはり幾らかの誘致補助というのですか、誘客補助、こういったものも考えるべきではないかと、新たなお考えを皆さんからいただきましたので……

（村山国子委員）補助は多分福島市出していると思います、既に。

（高木克尚委員長）目的なしで。

（村山国子委員）そういうふうに泊まりながらやるということに関しては既に。

（高木克尚委員長）それはちょっとでは調べます。今述べられた皆様の意見も含めて、ぜひこの提言しようとする方向性については正副委員長に一旦お預かりさせていただきたいのですけれども、よろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（高木克尚委員長）次回に向けてきょういただいた意見と５月９日のご意見を含めて提言すべき方向性について、提言内容ではなくて、すべき方向性だけ正副委員長にご一任をいただくということを確認願いたいと思います。

その他にまいります。

次回の委員会の日程、皆さんにお諮りしたいのですが、ことしの手帳で結構でございます。12月18日、本会議最終日ですが、午後から時間とっていただいてよろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

（高木克尚委員長）12月18日火曜日１時半ということでご予定をお願いしたいと思います。

では、そのような日程でよろしくお願いを申し上げます。

以上で東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を終了いたします。ご苦労さまでした。

午前10時41分　　散　　会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長　　高木　克尚